

中学部 第1, 2, 3学年 保健体育科「武道 柔道」学習指導案

単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・技ができる楽しさや喜びを味わい、柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる 体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻 防を展開することができる。【知識・技能】 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】 ・柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
○日本語支援 ●多文化共生の視点	<p>○オリエンテーションで講師による柔道に関する話を聞く中で、日本文化としての柔道の魅力や中国武道との比較などにもふれてもらい、柔道に対するマイナスのイメージを減らせるようにする。</p> <p>○柔道の歴史や特性に触れることで生徒ひとりひとりの関心を高め、意欲的な活動を進めていきたい。その中でも、技能面以上に礼儀作法力を入れて、相手を尊重する態度やルール・勝敗に対して公正な態度を練習や試合を通してきちんと身に付けることができるようにする。</p> <p>●本単元では、多文化共生の中で生きる力として、創造力の育成を図る。そのために、運動の行い方を理解し、運動技能を高め、身に付けたことを適応したり、活かしたりする能力を高めることができるようにする。</p> <p>●中国の方から見た日本の伝統文化である柔道、中国国内や青島における柔道についての話を聞くことによって、日本文化を再認識する機会とする。</p>

単元の指導と評価の計画

①【知識及び技能】 ②【思考力・判断力・表現力等】 ③【学びに向かう力・人間性等】

	学習内容と活動	指導と評価	①	②	③
1	○オリエンテーション ・柔道の特性、学習のねらい、学習の進め方を理解する。 ○柔道着の扱い方、準備運動 ・補強運動の仕方を理解する。 ねらい1 安全に柔道学習ができるように、受け身や投げ技ができるようになる。 ・礼法やルール、安全面への配慮を理解する。 ・日本文化や礼法について考える。	・特性を理解して、学習の見通しがもてる。 ・柔道について詳しく知ることができるように講師の話を聞く。 ・準備運動、補助運動が正確に行える。 ・学習カードの活用方法が分かる。	○		
2 ③ 4 5 6 7	○受け身 ・後ろ受け身 ・横受け身 ・前回り受け身	・受け身を一緒に行うことで、アドバイスができる。 ・教え合いながら練習ができる。 ・技の行い方を手本を見せながら、組み方や	○		○

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2人一組 <p>○投げ技</p> <div>崩しのポイント</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き手（左手）を引く ・ つり手（右手）を釣る ・ 体さばき <ul style="list-style-type: none"> ・ 膝車、支えつり込み足 ・ 体落とし ・ 大腰 <p>※低い位置から段階的に行う</p>	<p>体さばき、崩しについて説明する。</p> <div>膝車、支えつり込み足、体落とし、大腰の技能を身に付ける中で、投げ技の崩しについて理解し、それらを適応したり、活かしたりすることができるようにする。</div>			
8 9 1 0	<p>ねらい2 固め技を習得して、相手を攻防ができる。</p> <p>○固め技</p> <div>固め技のポイント</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の動きを制する ・ 隙間を作らない ・ バランスをとる <ul style="list-style-type: none"> ・ けさ固め ・ 横四方固め ・ 上四方固め ・ 返し方 ・ 相手との攻防（簡易試合） <p>○単元の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい固め技ができる。 <div>抑え込みの条件</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手がだいたい仰向け ・ 相手の上になっている ・ 相手の足で、自分の脚や胴体を絡まれている <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を尊重し、安全に注意しながら簡易試合を行うことができる。 ・ 試合の方法や簡易ルールを理解し、試合を進めることができる。 		○	○

本時の学習

(1) 目標

- ① 相手を尊重し、礼法を大切にしようとすることができる。(学びに向かう力、人間性等)
- ② 受け身の仕方を理解し、安全に気をつけて受け身ができる。(知識及び技能)

(2) 実際

(☆多文化共生の視点)

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点 (○) T1 評価 (◎)	指導上の留意点 (○) T2
導入	<p>1 あいさつ、健康観察をする</p> <p>2 本時のねらいの確認をする。</p> <div>礼法を意識しながら、安全に受け身ができるようになる。</div> <p>3 準備運動、補助運動をする。</p>	8分	<p>※授業開始前に武道場の安全確認をする。</p> <p>○出欠確認、健康観察をする。</p> <p>○本時の目標、学習の流れを説明する。</p> <p>○係の生徒を中心に元気によく号令をかける。</p>	<p>○見学者の体調把握をする。</p> <p>○必要に応じて補足説明をする。</p> <p>○接触等の安全面に気を付ける。</p>
展開	<p>4 礼法（立礼、座礼、座り方・立ち方）について確認する。</p>	3分 3分	<p>○前時で学習した礼法の確認をする。</p> <p>○相手を尊重し敬意を表すよう声を掛ける。</p> <p>◎相手を尊重する態度や礼法などをきちんと行うことができる。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>○礼法ができていない生徒へ個別指導を行う。</p>

	<p>5 受け身の練習をする。 (後ろ受け身、横受け身、前回り受け身) ※低い位置から段階的に行う。</p> <p>6 二人一組で受け身の練習をする。</p>		<p>○受け身の形を確認しながら、号令をかけてリズムよく練習できるようにする。</p> <p>◎基本的な受け身の仕方を理解し、受け身をとることができる。(技能)</p> <p>☆学習を振り返り、自分や他の人の良かった点等を発表することで、本時で身に付けたことを確認できるようにする。</p>	<p>○受け身の形ができていない生徒へ個別指導を行う。</p>
終 末	<p>7 整理運動、健康観察をする。</p> <p>8 まとめ、次時の学習内容の確認をする。</p> <p>9 あいさつをする。</p>	9 分	<p>○係を中心に元気よく整理運動するよう声を掛ける。</p> <p>○ケガ等がなかったかの確認と次時の予告をする。</p>	<p>○武道場周辺の安全面の確認をする。</p>

(3) 評価

- ① 相手を尊重し、礼法を大切にしようとしたことができたか。(学びに向かう力、人間性等)
- ② 受け身の仕方を理解し、安全に気をつけて受け身ができたか。(技能)

考察

授業の実際(授業反省から)

○準備運動や整理運動の際に、安全面への声掛けがあったので、生徒も安全に気をつけながら、授業に臨んでいたと思う。

○柔道着の帯の結び方に時間のかかる生徒がいたため、授業開始が少し遅れてしまった。

○礼法を意識させるための時間がかかってしまったため、受け身の練習時間が少なくなってしまったので、時間のバランスを考えて授業を展開したい。

○ペアで確認する時間をとったが、ペアによっては、細かい部分の確認が不足していた。

→ペアで確認する際のポイントについて、もう少し細かく確認するべきであった。

○日本人が大切にしている礼儀を、武道の授業ではここまで丁寧に指導するんだと思いました。

→授業者にもよるが、本校は在外教育施設であるので、特に礼法を意識して指導している。

～ 生徒の感想から ～

○中国人の李先生が、中国で道場を開いて柔道を教えているのはすごいと思いました。

○李先生が、私たち日本人に柔道を教えているということに、なんか不思議な感じがしました。

○柔道が、日本の文化であるということを再認識することができました。

○中国の武道(武術)についても勉強してみたいと思いました。

○礼儀作法を尊重する日本の文化を感じることができました。

考 察

青島柔道協会から指導に来てくださっている李江氏により、専門的な指導をしていただきながら、中国の方から見た日本の伝統文化である柔道、中国国内や青島における柔道についての話を聞くことによって、バイリンガル・バイカルチャルな生徒も柔道に興味関心をもち、授業を通して日本の文化について考えるきっかけとなったと思う。また、柔道の授業では、けがの危険性が高いため、特に緊張感をもち、メリハリのある授業を展開するように心掛けた。

今回の授業反省で指摘していただいた点を今後の柔道や他の種目の指導にいかし、運動することの楽しさに触れさせ、バイリンガル・バイカルチャルな生徒もそうでない生徒も生涯を通して運動に親しむことができるように、運動好きな生徒を一人でも増やせるような授業を展開していきたい。

